
クリスマスの決戦

ウォリアー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマス決戦

【Nコード】

N0147Z

【作者名】

ウォリアー

【あらすじ】

クリスマス——その本来の意味は失われ、今やDQN達の繁殖期と成り果てている。これは、そんなクリスマスを撲滅するために戦う漢達の物語である。

1：クリスマス爆発しろ！！（前書き）

今年もこのシーズンがやってきた。

1：クリスマス爆発しろ！！

薄暗い部屋の中、何人もの男女が集まっている。部屋の明かりは蝋燭が数本。男たちはそれぞれの武器を持っている。女も同様だ。やがて、部屋の前の方に二人の男が現れる。会場にどよめきが起る。

「みんな、今年もこの時期がやってきた」
集まった人々にどよめきが走る。

「クリスマスシーズン。 サンタクロースとの戦いの日が近づいてきた」

ゴクリ、と生唾を呑みこむ音が会場に鳴り響く。

「報告！！」

「はっ！！ 北海道、九州支部は、すでに奴らの卑劣な攻撃により壊滅寸前です！！ 生き残りは近畿支部が受け入れておりますが、すでに容量は限界近いです！！」

「生き残りは名老市に回せ。 武器、弾薬もそこに回してくれると嬉しい。・・・ああ、わかっている。 名老市には、今、聖杯がある。 奴ら、サーヴァントとして真祖のサンタクロースを呼び出す気だ」

真祖のサンタクロース、その言葉を聞いてざわめきが大きくなる。
「そんなバケモノに勝てるのかよ・・・」

「勝てる。 いや、むしろ勝たなくてはいけない」

なぜなら、と男は声を張り上げる。

「我々の最終目標はクリスマスと言う概念の撲滅、そして、奴らは間違いなく一年中をクリスマスにすることを望むだろう。 だが、だが、我々が聖杯を手に入れば全ては逆転する。 即ちクリスマス、サンタクロースをこの世界から抹消出来るのだ！！ それもサンタクロースを殺したというおまけつきで！！」

同時刻、リア充とチートキャラと転生キャラ（笑）の町、名老市

「くそつ！！くそつ！！くそつ！！バカな！！何故当たらない！！」
薄暗い部屋にいた男とよく似た格好をした男達がマシンガンを乱射している。

「功を焦りすぎたな、若造」

サンタの格好をした男が二人、一人は腕に令呪がある——がマシンガンを躲しながら話に応じる。

サンタは音も立てずに男の内の一人の首を掴み

「キリエ・エレイソン」

そのままへし折る。

「あ、ああ、ああああああああ！！！！！！！！！！」

絶望にかられた表情で男はマシンガンを乱射する。マシンガンはサンタに命中するが、サンタはそれを無視して近づいてくる。

「汝の魂に神の救いを」

演説を終えた男は大型バスに乗り込む。

「先遣部隊が全滅、俺たち以外のサーヴァントとマスターも全滅・・・か。ま、あの男ならこれくらいやってのけそうだがな」

「では、御指示を」

「俺たちのやることは変わらん。クリスマスを撲滅し、世界中の非リア充に安息を与える」

「では・・・」

「サーヴァントはすでに召喚している。それもとっておきのをな」
「では・・・！！」

「ああ、必ずヤツを倒し、安息を手に入れる」

1：クリスマス爆発しろ！！（後書き）

BGM：近所のDQNのギシアン

2：サタンさん（前書き）

悪魔め・・・

2：サタンさん

「これは……」

「ひどい、な」

首をコキヤられた死体が二体、男と部下の前に転がっている。

「くそっ！！ サンタの野郎！！ よくも我が同志を！！」

「落ち着け、エイブラハム（仮名）密入国船が来ていない以上はな
「しかし！！」

「それに、俺のサーヴァントの能力なら……」

男の手に何やら怪しい緑色の光が宿る。

「我が同志よ。 復活しろ。 クリスマスを殲滅するために」

サーヴァントの力が死体に流れ込む。 死体の傷が見るうちに
完治していく。

「これは……」

「俺のサーヴァントの能力、アンリミテッドサワークス無限の戦闘員だ。 見ての通り能力値が
オールE以下の死体を蘇らせることができる」

それにしても、と男は笑みを作る。

「やってくれるじゃないか。 サンタのヤツ。 なら、次はこちら

が仕掛ける番だ」

「では……」

「ああ！！ 全軍に号令！！ この街においてサンタと言う存在を
編んでいるモノ……クリスマスが無邪気に信じている子供たち
を排除するように伝えろ！！」

黒い装束を身に纏う男たちがビラを撒いている。 ビラを手にした
子供たちは、親に何事かを尋ねる。

「ねー、ラブホって何？」

「クリスマス割引って書いてあるよ？」

「サンタさんの正体がパパって本当なの？」

「ぐぬっ!!」

「どうされました!!」

「奴らめ……、わしの力を削ぐ戦法に出てきおった」

白髪の老人はそう言っただけの体を見る。サンタクロースとは、もともと実態の無い存在だ。それを肉付けするために伝承が追加されていった。故に、クリスマスに対する信仰が少なくなれば、それはそのまま力の消失、ひいては存在そのものの消失に繋がりがかねない。「しかし、我々は既に四体のサーヴァントを退けています。今更奴らがあがいたところで」

そこまで言っただけで、サンタのマスターは気付く。

「まさか……、いや、そんなはずは……」

「まあよい、弱者のあがきに答えてやるのもまた一興よ」

その言葉と共に、サンタの体が分身を始める。

【世界同時存在】サンタクロースの宝具の一つだ。サンタクロースは世界中の子供たちに同日、クリスマスプレゼントを届ける事が出来る。これはその逸話を元にした宝具だ。自分と全く同じ能力を持つ分身を作り出す事が出来る。この分身は一体一体が完全に独立しているためにマスターに負担をかける事は無い。

「さあ、行ってくるが良い!!クリスマスに仇成す存在には死あるのみ!!」

【CLASS】ライダー

【マスター】???

【真名】サンタクロース

【性別】男

【身長・体重】200cm・100kg

【イメージカラー】赤と白

【属性】秩序・善

【ステータス】筋力A↓B+ 耐久A+↓B 敏捷B↓C 魔力

A↓C 幸運EX↓A 宝具EX↓B

【クラス別スキル】

対魔力：A+↓C

A+以下の魔術は全てキャンセル。

事実上、魔術では。。。に傷をつけられない。現在は工作により減少している。

騎乗：A+↓B

騎乗の才能。獣であるのならは幻獣・神獣のものまで乗りこなせる。ただし、竜種は該当しない。現在は工作により減少している。

【固有スキル】

信仰存在EX

本来存在しない、または元はあまり強くない存在が人々からの信仰により姿と力を得た存在。人々からの信仰による存在。このサーヴァントの場合聖杯戦争では戦争が行われる土地のサンタクロースを信じる力によって能力値を決定する。場合によっては足を引っ張る、扱いの難しいスキルではあるが信仰が最大限に達した時、その存在は神にすら匹敵する物になる。ちなみに現在は反クリスマス同盟により能力値を減少させる原因になっている。尚、このサーヴァントの場合はクリスマス当日にありとあらゆる制約を振り払い、能力値を完全に発揮する事が出来るようになる。

気配遮断A

「暗殺者」クラス固有スキル。自身の気配を消す能力。完全に気配を断てばほぼ発見は不可能となるが、攻撃態勢に移るとランクが大きく下がる。というスキルだがサントクロースは、家屋への侵入に於いてもプロフェッショナルで極度に限られた時間の中での確にプレゼントを配達し、速やかに立ち去る手際。無音歩行術等の隠密行動技能を持つている。しかも、その洗練が凄まじいものであることは明白である。彼は数百年に渡り目撃されたことすらないという実話をもとに生まれたスキル。アサシンと違い攻撃の際にも気付かれない。

知名度EX

サントクロースにおいて一番の特徴はその知名度である。世界中の誰しもが知っていて当然で信仰され続けている存在のサントさんは知名度だけで本来はあり得ないほどの補正が掛りステータスを激増させている。彼に勝るのはかなり難しい。しかしながら、一部の者には憎まれているため、現在は一部スキルを減少させている。

信仰 A++↓A

世界中の人々から信仰され生まれる精神・肉体の絶対性。現在は工作により減少している。

神性 A++↓B↓D

神霊適性を持つかどうか。ランクが高いほど、より物質的な神霊との混血とされる。

「粛清防御」と呼ばれる特殊な防御値をランク分だけ削減する効果がある。

本来は聖堂教会の最高神ともよばれる存在そのものの神霊クラスのサントだが英霊として呼ばれたため現在に至る。現在は工作と土地柄（クリスマスを商業シーズンとしか見ていない日本）により減少している。

洗礼詠唱：A

キリスト教における“神の教え”を基盤とする魔術。
その特性上、霊的・魔的なモノに対しては絶大な威力を持つ。

【宝具】

ヴァイナハツ・ゲシエンク

『聖夜の贈り物』

ランク：A 種別：対人宝具 レンジ：1～？ 最大捕捉：67
億人

サンタクロースの所有する意思を持つ袋にして、相棒。

第一効果、子供達がサンタの存在を信じていれば、制限なしに（
サンタ本人が）欲するものを取り出すことができる。

第二効果、対象の人物を鑑定し、受け取るに相応しいと判断され
た物を投影する。
フレイメント

投影に必要な魔力は対象のものを使用し、効果時間はその思いの強
さに比例する。 また、自身の力を分け与える事も可能。
現在は使用に制限をかけられている。

シュティレ・ナハト

『聖夜の架け橋』

ランク：EX 種別：対星宝具 レンジ：0～99 最大捕捉：
67億人

赤鼻のルドルフを筆頭とした九頭のトナカイが牽く空飛ぶソリ。
ソリとトナカイ達の空間跳躍能力によって、レンジ内の目的地ま
での距離を一瞬で無にしてしまう。

また、この宝具は世界中の子供たちの願いで編まれている為、
それ以上の願いを持った物でなければ、走行を妨げることは出来
ない。飛行速度は光にも匹敵し急な方向転換も可能。巻き込まれ
ばそくこの世からの退場が決定すると言っても過言ではない。現在

は魔力供給が追いつかない為使用不可。

『シングルベル
聖夜の鐘』

ランク：B 種別：対人宝具 レンジ：1 最大捕捉：67億人

袋の中から金を取り出しそれを鳴らすと夏であろうが晴れであろうが雪が降る。それだけの宝具だが聖夜に近い状況になるためサンタの信仰があがり戦闘力が上がる。

『メリー・クリスマス
聖夜の教会』

ランク：？ 種別：？？？ レンジ：？？？ 最大捕捉：？？？

武器ではなく一つの魔術、固有結界の名称である。

固有結界とは術者の心象世界を具現化し、

一時的にせよ現実を書き換える魔術の総称。

固有結界は大禁呪と言われる特別な魔術であり、
修得している者は極めて少ない。

彼の場合は教会で超巨大な教会に景色が入れ替わる・・・この世界ではサンタクロースは神霊へと変貌し最強となる。現在はマスターからの魔力供給が足りない為使用不可。

『オイル・オーバー・ザ・ワールド
世界同時存在』

サンタクロースの能力値を莫大な物にしており尚且つ現在まで他のサーヴァントを圧倒した宝具。ノーリスクで使用できる。元々はクリスマスイブ、クリスマスの間に世界中の子供たちへプレゼントを配った事から。自分の現在の能力値と全く同じ分身を無限に作り出す事ができる。

【Weapon】

無し

【解説】

ミラのニコラオス。帝政ローマのリュキア属州のミラで生まれ、列聖された聖人。

子供、無罪な罪人、航海、学問の守護聖人……

そして、クリスマスイブに良い子とへプレゼントを贈るサンタクロースである。

これは、聖ニコラオスが子供の守護聖人であること、娘の身売りをしようとする家の煙突から、金貨を投げ入れ、そのおかげで身売りを避けたという逸話に由来するという。白ヒゲを生やし赤い服を着た、恰幅のいい好々爺。

「H O H O H O」（ハウハウハウ）と特徴的な笑い声をあげる。

南半球のオーストラリアなどではクリスマスの時期が夏にあたる為、

サーフィンに興じる姿が知られている。

反クリスマス同盟が勝つためには、工作により能力値をどこまで下げられるかに係っている。

2：サタンさん（後書き）

一日一話、感想があればクオリティは上昇します。

3：12月？ああ、天皇陛下に誕生日か（前書き）

だよ
ね

ールのように見えるがその実態は歴史上の数多くの事件において使用されたれっきとした概念武装だ！！　喰らえば貴様もただではすまん！！」

【CLASS】バーサーカー

【マスター】反クリスマス同盟《頭の悪い参謀》

【真名】しつと仮面

【性別】男

【身長・体重】180cm?・70kg?

【イメージカラー】嫉妬の炎と血涙の赤

【属性】激混沌

【ステータス】筋力（対カップル限定で）EX↓（それ以外）B
耐久A↓B　敏捷（対カップル限定で）EX↓通常時C　魔力C
幸運E-　宝具（対リア充限定で）EX↓（それ以外）D

【クラス別スキル】

（嫉妬心による）単独行動：EX

妬む、とにかく妬む、ひたすら妬む、そして勝手に暴走する

【固有スキル】

嫉妬心EX

彼専用の固有スキルだがとある一方方向にしか発揮されないためEXではあるが効果は余りない。

狂化（限定で）EX

バーサーカー固有のスキルではある物の上記同様一方方向にしか発揮されないため。

知名度???

時期限定でごく一部の地域でしか現れた報告が無いため

【宝具】

『嫉妬の炎』
カップルキラ

ランク？ 種別：対人宝具 レンジ：∞ 最大補足：二人

嫉妬の神を己の肉体に降臨させ相手^{カップル}をボコる、
とにかくボコる。

『ジェラシーファイバー
増殖』

ランク？ 種別：対人宝具 レンジ：∞ 最大補足：二人

しつと仮面の発する嫉妬の波動を感じ取った彼の信者達が
何処からともなく湧き出てくる。

【Weapon】

己の肉体・・・か？

【解説】

皆様ご存知（知らない人はごめんなさい）しつと仮面

さまざまな恋人達のイベントの場に現れては

世間を騒がす困った人。

アンダーグラウンドでは彼を教祖とする巨大な宗教も

存在するとかしないとか・・・。

『バールのようなモノ』

発祥は日本のニュースから。元々犯罪に使われた凶器が不明だった際にとあるニュースキャスターが『バールのようなモノ』と発言したのがルーツ。その逸話からとある魔術師が作成した。自重しろ。能力は世界中のありとあらゆる武器の代用品とできる事。ふつうの相手には効果が薄いが倒すために特殊なアイテムが必要な相手、例えばEXTRAのジャバウォックなどに対して絶大な効果を発揮する。ただし、武器そのものには何の変化も無いため攻撃方法は普通に殴る、しか出来ない。

3：12月？ああ、天皇陛下に誕生日か（後書き）

頭の良いバカ

ラブホは壊滅的な被害を負う事になる。が、それは別の話。

「……そうか、これでこの街の淫らな宿泊施設は全滅か。よくやった」

「だが、問題も起きた。この街でサンタの存在概念が強化されてしまった」

「そこに関しては電腦班に任せておけ。奴の弱点を追加している」
「了解した。ところで次の作戦は？」

大量の瓦礫の下から、ある種神々しい光が放たれる。そして、光が爆発した瞬間、そこに傷一つ負ってないサンタクロースが現れる。
「やってくれるじゃないか。あの者達。今回は本気で行かなければ拙いかも知れないな、マスター」

「そのようすな」

「なら、奴らの工作に対策を打つべきか」

5：男は黙ってゲームしろ、狂気のフロムソフトウェアクリスマスマス公式企画、

あの画像は色んな意味で画期的でしたね。

5：男は黙ってゲームしろ！狂気のフロムソフトウェアアクリスマス公式企画！

今回はサーヴァントの能力値について、ゲーム『アーマードコア』に例えて解説しよう。こういうのには賛否あるかも知れないがどちらにせよどこかで説明回をやる必要はあったしね。

さて、ライダーのクラスにいるサンタクロース。まあ、実際に召喚してもそれほど強くはならないと筆者は判断しているのだが、この小説自体おふざけだし設定を考えた想像屋さんもおふざけだったろうし、そこは余り気にしないでくれ。

ハイスペック＋複数のチート宝具持ちの彼が何故決めきれないか、その理由はズバリ、ハイスペック故の燃費の悪さ、言ってしまうえば魔力供給が足りなくなっているという事だ。例えて言うとなハイスペック高負荷装備とハイスペック高負荷フレームに対し内装が致命的に貧弱、と言ったところかな？ま、サンタのマスターも魔術師の中では中堅レベルなのだが。

他のサーヴァントに対しては宝具で見敵必殺を貫くことが出来たわけだが、今戦っている相手はそれらのデータを持っている。つまり、手品のタネを見抜いているという事だ。ついでに言えば、彼らはサンタ狩りのプロフェッショナル、この程度なら見抜いて当然と言っわけだしね。

次に、工作によって能力値を減らされることもかなり痛い。このサーヴァントは能力値が高いのだが、そのルーツの大半が信仰により支えられているというのが痛い。つまり、英霊としての地力が無いに等しい、と言っわけだね。戦闘的なサンタクロースの逸話など、三流都市伝説くらいなものだろうしね。何が言いたいのかと言うと、

サンタの能力値はマイナス変動しやすい、ACに例えるとそれまでの強装備がレギュル改変によって著しく弱体化する、と言ったところだろうか。

とは言えソレは、逆に能力を上げる事にも利用できる。イメージダウンにより能力が下がるならイメージアップで能力は強化される。最もマスターもサーヴァントもそんなことは気にしてないようだがね。ま、型月作品にとってステータスは飾りだし、それをもとにした、いや、そう言えるのか？まあ、とにかくこの作品は聖杯戦争ベースだしな。とにかくこの作品でもそれは同様だから、ま、気にしない彼らの態度が正しいんだろうな。

それに、能力値を工作で減らす、と言う反クリスマス同盟の一見賢い戦い方についても実情は、それしか出来ない、と言うのが正しい。つまり、それほどに強力でどうしようもない敵であると言えるだろう。実際、こんなのと戦ったら瞬殺される自信がある。それは能力値が下がっても変わらない。これは筆者の持論なのだが能力値の高さと強さは比例しない。能力値がいくら高くても弱いヤツは弱いし無能なヤツは無能だ。その逆も然り。と言うか能力値の高さと強さが比例するなら第四次聖杯戦争はケイネスの圧勝だし。

話が逸れたがこのライダー、サンタクロースは間違いなく強い。能力値の高低に関係無く。しかも能力値も高いのだから、一番質の悪い相手だろう。

以上だ。私が誰か、だって？ふふ、それは二十日前後のお楽しみだ。

5：男は黙ってゲームしろ、狂気のフロムソフトウェアクリスマスマス公式企画、

A Cでサントを襲撃したあれです。

6：貧弱、貧弱う！！

「父ちゃんの嘔吐き！！」

子供は父親に罵声を浴びせる。

「サンタさんは何でもくれるって言ったじゃないか！！」

子供の罵声に父親はひたすら耐える。そこで、目が覚めた。

「……………少し眠っていたようだな。対空監視、どうなっている」

「はっ！！今のところ問題ありません！！」

そうか、とだけ言って軽く目を閉じる。気配遮断スキルの弱点は存在そのものを消す事は出来ないという事だ。故に、気配感知もへたくれもない現代的なセンサーには極めて弱い。

「……………そうか、アジトの中のセンサーも起動してない。つまりは今、攻撃されてるのはアイツだけか。いつもいつも、アイツには迷惑をかける」

「それにつきましては参謀殿から伝言を預かっております。氣にする必要は無いと」

「そうか、帰ったらアイツには特別給与をやらないとな」

「これは……………帰れそうに無いな」

参謀は呟く。その周りを囲むのは無数のサンタクロース。何故か全員が血塗られた鉈を持っている。

「覚悟するが良い、クリスマスに仇成すものよ。今なら特別セールで苦しまずに逝かせてやるぞ」

「っはは、まったく、C.V若本の時点で勝てない事を悟るべきだったかな」

ま、敗けてやる気も無いが。参謀はそう呟いてサーヴァントを呼び出す。

「行こうか。この街にリア充は必要ない。見せてやる。究極のクリスマス攻略法を！！」

■クリスマスをなかったことにする

12月23日23時頃（日本時間） 羽田発ロサンゼルス行き飛行機に乗る

12月23日16時頃（現地時間） ロサンゼルス到着

12月23日23時頃（現地時間） ロサンゼルス発羽田行きの飛行機に乗る

12月25日4時頃（日本時間） 羽田到着

これで聖夜は回避できる！！

23日の23時に寝るから26日になったら起こしてくれ

「ぐわああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！！！！！」

全身から血を噴出してサンタクロースの大群が消滅する。かろうじて生き残った者も苦しみにもた打ち回っている。そんな相手に情けをかけるバーサーカーではない。

「ったく、少しは自重しろバーサーカー」

魔力供給が追いつかなくなったのか、参謀は倒れる。

「ははっ、リア充共の悲鳴が聞こえる、良い夜だ」

「きつ貴様！！ クリスマスの意義が何故わからん！！」

「DQNの繁殖期に意味など無い！！」

6：貧弱、貧弱う！！（後書き）

皆もレッツトライ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0147z/>

クリスマスの決戦

2011年12月5日13時47分発行